

公式テキスト正誤表

頁	場所	誤	正	修正
20	一番下の行	100 人分のデータを抜粋したものです。	90 人分のデータを抜粋したものです。	
33	5.度数の確認 1 行目	今回、100 件という限られた件数のデータを	今回、90 件という限られた件数のデータを	
38	5 行目	「貯蓄・負編」	「貯蓄・負債編」	
41	図 2.19 凡例	尖度 > 0 (なだらか)	尖度 < 0 (なだらか)	
57	4 行目	6 月 1 から 30 日の期間	6 月 1 日から 30 日の期間	
86	MEMO	分析ツールを使う方法は第 6 章で説明します。	分析ツールを使う方法は第 7 章で説明します。	
95	下から 2 行目	小数点 1 位での四捨五入では構成比は 18.9%のままです。	四捨五入で小数第 1 位までを求めると、構成比は 18.7%となり、0.2 ポイントしか変わりません。	
103	5.3.3 上から 5~6 行目	たとえば、図 5.8 の例で、「性別と年代の違いが、環境問題への関心に違いがある」とわかっても、	たとえば、「性別と年代の違いが、環境問題への関心に違いがある」とわかっても、 ※「図 5.8 の例で」を削除	
105	下から 8 行目	セル C27 からセル D28 に計算した残差を合計すると、4.314 になります。	セル C27 からセル D28 に計算した残差を合計すると、4.341 になります。	
106	有意確率の式	4.314	4.341	
106	調整済み標準化残差の式	$\sqrt{\frac{(\text{実測値} - \text{期待度数})^2}{\text{期待度数} \times \left(1 - \frac{\text{行の合計度数}}{\text{全体の度数}}\right) \times \left(1 - \frac{\text{列の合計度数}}{\text{全体の度数}}\right)}}$	$\sqrt{\frac{\text{実測値} - \text{期待度数}}{\text{期待度数} \times \left(1 - \frac{\text{行の合計度数}}{\text{全体の度数}}\right) \times \left(1 - \frac{\text{列の合計度数}}{\text{全体の度数}}\right)}}$	

頁	場所	誤	正	修正
107	1 行目	ルートの中の分子は普通の残差と同じ「(実測値 - 期待度数) ² 」です。	分子は「実測値 - 期待度数」となり実測値の方が多ければ「+」の値を、少なければ「-」の値をとります。これを分母の式で割ると調整済み標準化残差という値が計算されます。	
111	問 1 の選択肢(3)	分散分析	一元配置分散分析	
132	問 1 の選択肢(3)	分散分析	一元配置分散分析	
132	問 2 の選択肢(3)	分散分析	一元配置分散分析	
132	問4の選択肢(1)	(1) $P(T > t)$ の値は、有意確率を表している。	(1) $P(T \leq t)$ の値は、有意確率を表している。	
152	問 6 の問題文	(第 7 章_章末問題 6.xlsx)	(第 7 章_章末問題 Q6.xlsx)	
178	下から 4 行目	ほんのわずかしかが影響しかない変数でも、	ほんのわずかしかが影響しない変数でも、	
208	第 1 章 8.(1)	最高気温 最大値と最小値の幅:5.29℃	最高気温 最大値と最小値の幅:5.23℃	
208	第 2 章 8.(1)	6 か月の区間の場合、30～35 か月間(約 3 年)の使用が多いことを示しているが、	6 か月の区間の場合、25～30 か月の度数が 12 と最も多く、それ以降は減少傾向にある。	
209	第 5 章 2	(1)、(3)	(1)、(2)	